

親切ときがたの女王

ととかく細くゆる

ハニ人、がは原新かわかるほど(周)にわたり

~~有~~かかるとニニアアも焼いたのよ小口きり

福神づけのきがた、コがまきりの細きり河で

もゆるゆる、それが私への親印と思つている

のかもしれぬい、私にはハニ人、がは私とのきり

のにお食がないし、ラッ干コア福神づけは印)

ア子ろと箸にかからぬい、箸といふはアい

なとかりかりとアいて箸がたをぬい

冬の閑足がつかないと思はせぬ

で足をとつてくわゆる私の足は年々おか

かしよりので使厚のたそのたび

をゆつとくくるので逆に寒いの

人と親しくするつつかしい相手

ろ思つているかキヤリヤリし

人の筆をきつていゝが自分

そろいよばあやまの親で

それぞいれ自分~~の~~たしい

つていゝか舞おつか

今私う去来る新平はやしさと思うひらる私はふ

りかえうていじゆをこなすもりだりす

みるふすでいりるのながきでその女はこれと

ようとうたえいこのだろ